



平成23年度「酪農フィールド科学演習」が開講されました

1. 本授業開講の趣旨

広島大学大学院生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター西条ステーション（農場）が平成21年度「教育関係共同利用拠点」に認定されたことを受け(認定期間：平成22年6月10日～平成27年3月31日)、教育拠点活動の一環として平成23年度8月30日（火）～9月2日（金）にかけて、農学系学部学生を対象に「酪農フィールド科学演習-乳牛を中心とした食農フィールド演習-」を開講しました。

本演習は農学の基礎知識を持った学生が、教育共同利用拠点の認定を受けた本農場(附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター西条ステーション)をはじめとして、食品製造実験実習棟や精密実験圃場において、草と家畜(特に乳牛)と土との循環の中でミルクを生産して食品に加工していく過程を体験的に学び、講義、実習および討議を通じて「農業」と「食」の関わりについてより深く考えることを目指した内容で構成されています。

2. 受講者

受講者の所属大学および学部、学科等別の人数は以下の通りでした（アイエオ順）。

大学名等	所属		受講者数
愛媛大学	農学部	生物資源学科	2名
岡山大学	農学部	総合農業科学科	1名
香川大学	農学部	応用生物科学科	1名
県立広島大学	生命環境学部	環境科学科	1名
高知大学	農学部	農業科・生命化学コース	1名
		農業科・眼地農学コース	1名
島根大学	生物資源科学部	農業生産学科	2名
鳥取大学	農学部	生物資源環境学科	4名
広島大学	生物生産学部	生物生産学科	22名
山口大学	農学部	生物機能科学科	2名
受講者数（合計）			38名

3. 講義および実習内容

詳細はこちらの[PDF](#)をご覧ください（内容は平成23年度の案内と同じものです）。

4. 演習風景

本演習では、受講生に対して事前に発表会での発表課題（本年度は「私たちが考える理想的な酪農とは」）を提示し、受講生は様々な大学の学生で構成された班ごとに分かれて、3泊4日の演習を通してその課題について深く考え、討議し、最終日にはその集大成としてプレゼンテーションに挑みました。



<実習開始>
作業着に着替えていよいよ実習開始です。



<家畜の飼養管理①>
ミルクパーラーでの乳牛の搾乳作業を行いました。



<家畜の飼養管理②>
搾乳ロボットを使った搾乳作業とそのメンテナンス方法を学びました。



<交流会>
1人ずつ自己紹介を行い、受講動機や自分の専門分野、興味・関心事等について話しながら交流を深めました。



<家畜と草(牧草)との関係>
実際に草地を歩きながら圃場生育する牧草を見て回り、牧草や飼料作物、放牧について学びました。



<家畜の人工授精>
子宮と卵巣、精子の観察等の実習を通して乳牛のライフサイクルについて理解を深めました。



<生乳の加工>
農場牛乳と市販の牛乳との比較やバター作り体験を通して、命(乳牛)から食品ができるまでの過程をたどりました。



<濃厚飼料（家畜の飼料）について>
国内における濃厚飼料の利用状況や食料自給率、効率的な家畜生産のための飼料設計について実際に飼料を観察しながら学びました。



<乳牛・肉牛の遺伝的特性>
ウシの品種(乳用・肉用・その他)について、遺伝的・育種学的な観点から講義が行われました。



<課題発表会>
提示されたテーマ（『私達が考える理想的酪農について』）について班ごとに発表が行われました。